



▲隊員たちを見送る住民たちは、沿道で手を振り続けた。

南三陸町に駐留し、行方不明者の捜索や復旧支援に当たっていた自衛隊のほとんどは6月末で撤収となった。津波でほとんどの機能が失われた南三陸町にとって、震災直後から住民たちを支え続けてきた自衛隊は、きわめて大きな存在だった。

しかし、陸上自衛隊第22普通科連隊(宮城県多賀城市)の活動は、2011(平成23)年8月にまで及んだ。連隊は行方不明者の捜索のほか、食事の提供、給水、入浴、ハエの駆除など多様な活動で住民を支え続けてくれた。

同年8月5日、バイサイドアリーナの多目的広場で、陸上自衛隊第22普通科連隊の撤収式が行われた。この日の式典には隊員34人が出席した。國友昭連隊長(当時)の「町が力強く復興することを祈っています」というあいさつに、私たちの胸は熱くなった。佐藤仁町長は「自衛隊は町民にとって大変心強い存在でした」と心からの感謝を述べた。別れを惜しみに駆けつけた住民たちは、いつまでも手を振り続けた。

心強かった自衛隊の存在が消え、私たちの心には一抹の寂しさが宿った。